ひょうご人権ジャーナル

きずな

ひろげよう こころのネットワーク

2014年
（平成26年）

2

特集テーマ

まなびと人権

きづく わかる つながる

2月21日	国際母語デー

母語とは、人間が幼少期から自然に習得する言語のこと。言語と文化の多様性、多言語の使用、そしてそれぞれの母語を尊重することを推進するため、国際連合教育科学文化機関（ユネスコ）が1999（平成11）年に制定しました。

2 「肌色」って何色？
神崎郁実さん（西脇市）
平成25年度のじぎく文芸賞（随想部門）優秀賞受賞

3 人権感覚を育む手だて
－居場所と物語をつくる－
桂 正孝さん（大阪市立大学 名誉教授）

4 「自立型支援方法」を使って
対人能力の向上を
ＮＰＯ法人マザーズサポーター協会（神戸市東灘区）

5 多彩な活動で地域の「いのち」を支える
ＮＰＯ法人コウノトリ豊岡・いのちのネットワーク
（豊岡市）

6 スポーツチームとの連携・協力による
人権啓発活動

7 ふれあいサロン

8 情報ぷらざ

兵庫県・（公財）兵庫県人権啓発協会

特集

まなびと人権

人権文化を進め定着させるためには、人権に関する学びの機会が大切です。家庭や地域、学校での学びの機会を一層充実させ、私たち一人ひとりが自分も他者も大切にする心を育て、互いを尊重し合える人権感覚を育んでいきましょう。

「肌色」って何色？

※一部抜粋

神崎（かんざき） 郁実（いくみ）
（西脇市立西脇南中学校3年）

先日テレビを見ていると、興味深い番組を放送していた。それは、通りがかりの人に「この色は、何色ですか？」とクレヨンを差し出して、色を答えてもらうというものだった。私なら、その色を見て「肌色」と答える。質問を受けたほとんどの大人は、それを見て私と同じように、当たり前のように、その色は「肌色」だと答えていた。

しかし、幼稚園児に、大人が「肌色」と答えた色を見せると、彼らはみな口をそろえて「うすだいだい」と言った。彼らが、使っているクレヨンの色の中には、赤、青、黄に並んで、「うすだいだい」という色があった。

どうして、現在のクレヨンには「肌色」がないのか。どうして、「うすだいだい」と呼んでいるのか。その理由を聞いて私は、なるほどと思った。

現在の日本では、国際化が進み、たくさんの外国の方が住んでおられる。実際、私たちの住む西脇市にも実にたくさんの外国人の方が住んでおられる。その人たちの、肌の色は、少し私たちの肌の色とは違うことがある。

父にその話をすると、「アメリカで売られている絆創膏（ばんそうこう）の中で、どんな色が一番よく売れていると思う？」と尋ねられた。私はとっさに、日本では「うすだいだい」が「肌色」として売られていることから、アメリカでは白や黒、茶など様々な色の絆創膏が売られていると思った。

父に聞いてみると、アメリカで一番よく売れている絆創膏は、透明やディズニー等のアニメキャラクターのものだそうだ。

このように、日本の中で暮らしていると、日本人のものの見方や考え方、習慣などを当たり前のものと思ってしまう。それが知らず知らずのうちに、心のバリアを作ってしまう原因の一つになるのではないか。

平成25年度のじぎく文芸賞（随想部門）優秀賞受賞

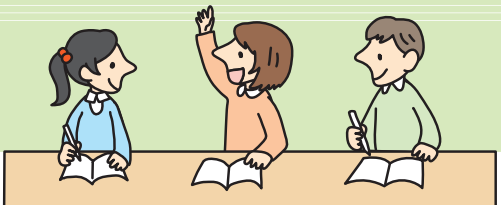
神崎郁実さんのコメント

身近な生活の中にある出来事も、人権という視点で見つめ直してみると、今まで気が付かなかったことがいろいろ見えてくるものだなとあらためて思いました。

メッセージ

人権感覚を育む手だて ―居場所と物語をつくる―

桂（かつら） 正孝（まさたか）さん（大阪市立大学 名誉教授）



「居場所」はありますか

せんせいは、がっこうでは／なんでこわくて／かていほうもんのときは／やさしくするんじゃ／ゆうてみい（「ひょうご 子どもの詩と絵」〈第5集〉）

このユーモラスな詩は、小学二年生の男の子が綴（つづ）った「せんせい」と題する作品です。とても楽しそうな教室の情景が浮かんできませんか。担任の先生と子どもたちが人として対等で、自由な雰囲気の中で気持ちがしっかりと結び合っていて、心の居場所があるように思われます。

ここでいう居場所とは、子どもたちが安全で安心して暮らしていくのに不可欠で、自己実現や相互扶助の場を意味しています。周りの人にとって自分が必要とされ、頼りにされている場（社会的居場所）と自分らしさや自尊感情を実感できる場（個人的居場所）からなっています。前者を「メンバーシップ」、後者を「アイデンティティ」と言い換えることもできるでしょう。

子どもたちの人権感覚を育むという営みは、なによりも家庭や学校、地域の中に個人としての主体性が認められる生活空間をつくることから始まります。

厳しい生活環境の中で

しかし現実には、多くの子どもたちが、グローバル化する経済のもとで、格差と貧困といった激変する生育環境の劣化の中で暮らしているのです。高度情報化や少子高齢化による人間関係の希薄化がすすみ、携帯電話やスマートフォン、ポータブルゲーム機などのメディア・グッズに支配され、ときには競争と孤立を強いられ、自分らしさを見失い、生きる意味や意欲すら失ってしまう姿もみられます。

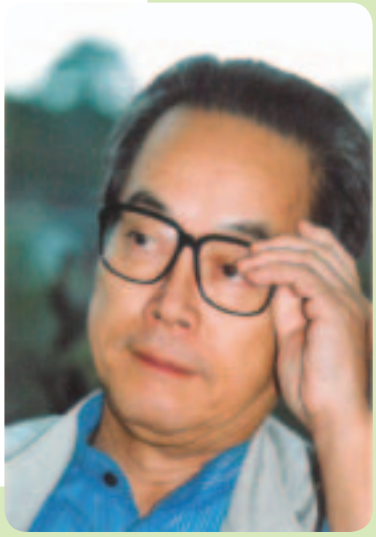
今、深刻な社会問題になっている「いじめ苦自殺」の問題も、心の居場所が、失われた果てに起きているのではないでしょうか。

「物語」をつくることから

では子どもたちが苦境から脱出するにはどんな方法があるのでしょうか。もちろん子どもの自ら選択する判断力が必要です。その判断力の源泉は、自分の中にある個人の尊厳を自覚し他者を尊重する人権感覚にあります。

それには、自分自らの物語をつくる場、つまり出番づくりを支援することが大切です。「物語る」とは、面白くて夢中になれるもの、将来の夢や希望をみつけて自らに語り励ますことです。共感し合う仲間や大人の支援によって等身大の自己像をみつけ、人生設計を状況に応じて軌道修正しながら、未来への展望をひらくことではないでしょうか。

仲間づくりの目的は、自律と共生の居場所づくりであり、社会的自立力を育む土台となる人権感覚を育てることにあるのです。



プロフィール　1937（昭和12）年、洲本市生まれ。1967（昭和42）年、大阪大学大学院文学研究科博士課程単位取得退学。大阪大学医療技術短期大学部講師・助教授を経て、1979（昭和54）年に大阪市立大学文学部助教授、1985（昭和60）年に教授。2001（平成13）年から現職。宝塚大学の特任教授も務めている。専門は教育方法学、人権教育論。著書に「子どもの生活と集団づくり」（明治図書）など多数。

取材ノートから

「自立型支援方法」を使って対人能力の向上を

NPO法人マザーズサポーター協会（神戸市東灘区）

「NPO法人マザーズサポーター協会」が目標に掲げるのは、自立した人々が互いに認め合い、尊重し合う「みんなが気持ちの良い社会」の実現。その一環として、独自に提唱する「自立型支援方法」を使って、医療従事者向けのセミナーや学校での特別授業、企業研修などを行っています。

自立型支援方法とは、世の中の全ての人が自分の仕事、役割、立場を自ら選択しているという自覚を高め、「自分の人生を、自分の選択によって生きていく自由」を持てるための指針。コーチングや心理学をベースに考えた14項目から成り立っています。

昨年9月から11月、協会のスタッフは屋久島おおぞら高等学校のサポート校であるKTC中央高等学院神戸キャンパスで3回にわたり、キャリア教育プログラム「ドリームクラフト」の講師を務めました。このプログラムは、生徒たちが自分らしく生きていくためのスキルを身に付けることを目的としたもので、自立型支援方法を活用したコミュニケーションについて講義しました。

授業には木村光江さんら5人のスタッフが参加。まず、木村さんが自身の経験をユーモアたっぷりに語りながら、生徒たちに質問をしていきます。最初は緊張気味だった生徒たちも場が和むにつれて、口調も滑らかに。それぞれの率直な思いを語ります。「安心して意見を言える場づくりが大切なのです」と木村さん。

木村さんは軽妙な語り口で生徒たちをリラックスさせ、次々に質問を投げ掛けます

続いて、4人ずつのグループに分かれ、それぞれにスタッフがファシリテーター（進行役）として入り、相手の気持ちを察しながら自由に語り合います。中には、友人から意外な思いを打ち明けられて、感激の涙を流す生徒もいました。「相手の気持ちを考えたコミュニケーションの大切さが分かりました。人の良いところを見ると気持ちがいいです」と女子生徒の一人は笑顔を見せます。

グループに分かれての語り合い。発言の際は「自分ならどうするか」という観点に立ち、相手の気持ちを考えながら言葉を選びます

「社会や学校における悩み事の多くは人間関係にあります。よりよい人間関係をつくるためには、相手を尊重し、自分との違いを認めることが大切です。生徒の皆さんには自立型支援方法を活用して円滑な人間関係を築いた上で、持てる力を存分に発揮してほしいです」と木村さんは語ります。

NPO法人マザーズサポーター協会
神戸市東灘区御影3-2-11-306
TEL 078(843)8748
自立型支援方法について詳しくはホームページへ
マザーズサポーター　検索

取材ノートから

多彩な活動で地域の「いのち」を支える

NPO法人コウノトリ豊岡・いのちのネットワーク（豊岡市）

「NPO法人コウノトリ豊岡・いのちのネットワーク」は「大切な命を輝かせたい」を合言葉に、ひきこもりの若者の自立を支援する「ドーナツの会」、東日本大震災の被災地を支援する「復興ボランティア」、安全安心な野菜を作って被災地に届ける「いのちの学校」、クッキング教室を通して健康的な食生活を提唱する「ゆめポケット」を四本柱に取り組んでいます。

但馬丸ごと感動市でブースを出店。中学生のボランティアも参加し、手作りの小物や東北の物産品などを販売しました

2011（平成23）年にスタートした「ドーナツの会」では、カウンセリング経験の豊富なスタッフがひきこもりの当事者やその保護者からの相談を無料で受け付けています。月1回、当事者たちが集まってゲームや小物作り、料理などを楽しむ「若者の会」を開催。当事者同士、心安らぐひとときを共有することでコミュニケーション力を育み、自立への足掛かりをつかみます。

昨年11月に但馬ドームで開催された「但馬まるごと感動市」では、若者の会等で作った鍋敷きなどを販売。この時、長い間ひきこもりがちだった20歳代の女性が接客を担当しました。

「人と接するのが苦手だった彼女がお客さんに応対できるまでになり、本人も満足そうな笑顔をのぞかせていました」と事務局長の山本進さんはうれしそうに振り返ります。

環境体験活動の「いのちの学校」は市内5カ所の「エコ農園」で、子どもと大人が一緒になって米や野菜の無農薬・有機栽培に取り組み、収穫物の一部を東北地方の被災地へ届けています。今から10年前、豊岡市内は台風による大規模な被害を受けました。エコ農園の活動は、当時全国から寄せられた支援に対する恩返しの意味も込められています。

「全ての命が輝き、人と人とが強い絆で結ばれる地域づくりを進めていきたいです」と山本さんは今後の抱負を語ります。

ひきこもりの当事者や保護者、スタッフが集まる若者の会は、いつも和気あいあい。昨年11月にはそば打ちを楽しみました

NPO法人コウノトリ豊岡・いのちのネットワーク
豊岡市塩津町1-14 エールハイム102号 TEL 0796(26)1101 豊岡いのちのネットワーク 検索

じんけん情報

スポーツチームとの連携・協力による人権啓発活動

兵庫県では平成25（2013）年度から、県内に拠点を置くスポーツチーム・選手等と連携・協力して、試合会場やスポーツ教室などで人権啓発活動を展開しています。スポーツには一定のルールの下、チャレンジする勇気やあきらめない情熱、他者を思いやり力を合わせること、みんなと仲良くすることなど、人権意識に通じるところが多いことを伝え、皆さんの人権尊重意識の高揚を図ります。

主な取り組み

INAC神戸レオネッサとの連携

8月3日
ヒューマンフェスティバル2013 in たんば（丹波市）
小学3年生以下の子どもを対象に「子どもじんけんサッカー教室」を開催。チームワークの大切さや仲間を思いやる心、フェアプレーなどについて学びました。

その他

9月29日　全国車いすマラソン大会（篠山市）
兵庫県、（公財）兵庫県障害者スポーツ協会、篠山市が主催し、（公財）兵庫県人権啓発協会が協賛。小・中学生を含む約800人のボランティアが大会を支えました。

阪神タイガースとの連携

9月21日
阪神甲子園球場（西宮市）
兵庫県のマスコットキャラクター「はばタン」、法務省の「人KENまもる君・あゆみちゃん」が公式戦に詰め掛けた約4万4,000人のファンに人権の大切さを呼び掛け、人権メッセージ入りのクリアファイル1万枚を配布。電光掲示板に腹話術師のいっこく堂さんが出演している人権啓発映像を流しました。

12月8日　県立淡路佐野運動公園（淡路市）

「阪神タイガース選手による少年野球教室」を共催。淡路島と徳島県の少年野球チームに所属する子どもたちが選手と人権クイズにチャレンジしました。

きずなライブラリー
～おすすめの一冊～

絵本はこころの処方箋
岡田達信著（瑞雲舎）

著者は〝絵本ソムリエ〟として、全国各地で大人向けの絵本セラピー講座を開いています。大人が絵本を読むことにどのような効果があるのか。筆者は人生経験を重ねてきた大人が読むからこそ、さまざまな見方があり、深読みができて面白いといいます。他人から指摘されると聞き入れにくいことも、絵本を通してなら素直に受け入れ、自分の内面を見つめ直すことができると。

本書は、前半に絵本セラピーについての説明、後半は筆者が読者の心の症状に合わせた絵本を処方します。人間関係で悩んだとき、自分が分からなくなったときなどに本書を開いてみてください。あなたの心を癒やしてくれる絵本が見つかるはずです。

ふれあいサロン

読者からのお便り

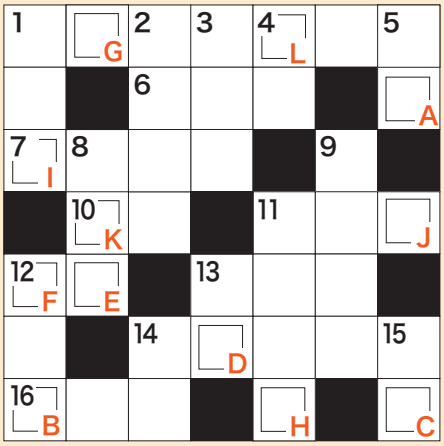
●毎号勉強になり、考えや知識などを改めるきっかけにもなります。自分が発信者になっていけば、小さなことからでも始められると思います。
（三木市・いちご）

●12月号の寄稿「障害者差別解消法への期待」を読み、マザー・テレサの言葉「愛の反対語は憎しみではなく無関心」、ヘレン・ケラーの言葉「障害があることは不便だが不幸ではない」が心に響きました。今こそ誰もが幸せに暮らせる世の中になるよう心掛けたいものです。
（赤穂市・藪林定美さん）

●12月号のじんけんクイズ「このマークは何でしょう？」を子どもたちに見せると、いろいろと話題が広がりました。他にも多くのマークがあるとのことで検索しました。
（赤穂市・ショウチャン）

「きずな」のバックナンバーは、当協会または各市町の人権啓発担当部署にお尋ねください。

クロスワードを解いて、A～Lの文字を順番に並べると、何という言葉になるでしょう？



タテのカギ

1 子どもは親の○○○を見て育つ
2 学校の先生
3 主な内容。「発言の○○○を短くまとめる」
4 練習の成果を存分に発揮し、○○のない試合を!
5 何事もまず○○をしっかりと身に付けたい
8 小説のように変化に富んだ大冒険や一大事業。「○○○をかき立てる」
9 今の状態を取り消し、始動の状態に戻すこと
11 師に付いたり学校に通ったりせず一人で勉強すること
12 差し迫った事態。「○○○ヒッター」などと使う
13 「人の○○見てわが○○直せ」
14 人の欠点。「○○探しはやめましょう」
15 魚類。さかな

ヨコのカギ

1 消極的ではなく思い切って果敢に攻めていこう!
6 みんなで一斉に物事を始める時の掛け声は「○○○ドン!」
7 仕事上の過重な精神的、肉体的負担が原因となって急死すること
10 ないよりは○○? そんなことはありません。なくてはならない存在です
11 周囲に環を持つことで知られる太陽系の第六惑星
12 第1番、最上等のもの。「○○からキリまで」
13 困難にもめげず、○○○の精神で頑張りたい
14 感謝の気持ちはこの言葉で伝えたい
16 選手の皆さん、思いっきり○○○を発揮してきてください。私たちも○○○いっぱい応援します!

〈12月号の答え〉**キゼワシイトシノセ**

お便り掲載者　クロスワード正解者（抽選）

「オリジナル・ポケッタブルナイロントート」をプレゼント!

「読者からのお便り」の投稿掲載者（4月号に掲載）とクロスワードの正解者（抽選で15人）にオリジナル・ポケッタブルナイロントートをプレゼント。本誌「きずな」へのご意見やご感想、人々との触れ合いを通した心温まるエピソードなどを募集しています。どしどしご投稿、ご応募ください。

※投稿はペンネームの使用も可能です ※当選者の発表は発送をもって代えさせていただきます

■応募方法・締め切り
はがきかファクス、メールで受け付け。クロスワードの答え、郵便番号・住所、名前（ペンネームを使用する場合も要併記）、電話番号、年齢、職業、本誌へのご意見・ご感想を書いてください。3月5日（水）締め切り（必着）

■応募先　〒650-0003　神戸市中央区山本通4-22-15 県立のじぎく会館内　（公財）兵庫県人権啓発協会「きずな編集室」
TEL 078（242）5355　FAX 078（242）5360　✉info@hyogo-jinken.or.jp

※投稿者と応募者の個人情報は適切に管理し、誌面づくり以外の目的には利用しません

平成25年度「人権のつどい」に500人が参加

これまでに関わってきた患者とのエピソードなどを語る徳永さん。明るい語り口ながらも重みのある言葉は聴く者の胸に響きました

昨年12月2日、県公館で「人権のつどい」を開催しました。この行事は「人権文化をすすめる県民運動」の一環として行っているもので、今年度は約500人が集まりました。のじぎく文芸賞の表彰式から始まり、「ハートフル人権コンサート」では視野や視力を失いながらも全国各地でコンサート活動を続けている前川裕美さんが登場。美しい歌声が会場に響きました。続いて、野の花診療所院長の徳永進さんが「いのちの終わりに見えること」と題して講演。患者に寄り添った終末期医療を通して感じた「命」への思いを訴え掛けました。人権のつどいの概要は県のインターネット放送局「ひょうごチャンネル」でご覧になれます。

ひょうごチャンネル　検索

前川さんは盲導犬「グレース」との出会いについて語り、ピアノの弾き語りで「Believe」など5曲を披露しました

イベントガイド

猪名川町 人権・同和教育研究協議会 研究大会	●**日時**／2月8日(土)10:00～ ※無料、申し込み不要、手話通訳・要約筆記あり ●**場所**／猪名川町文化体育館 ※能勢電鉄「日生中央」駅から阪急バス「パークタウン中央(イナホール前)」下車すぐ ●**内容**／講演「これからの人権・同和教育について」平沢安政さん(大阪大学大学院教授) ●**問い合わせ**／木津総合会館 TEL072(768)0217
たつの市 人権を考える市民の集い (揖保川会場)	●**日時**／2月8日(土)13:30～16:15 ※無料、申し込み不要、手話通訳あり ●**場所**／たつの市総合文化会館アクアホール ※JR「竜野」駅から徒歩約10分 ●**内容**／「私の心にひびいたあの一言」の表彰・朗読、ライフデザインいぼがわによる人権啓発劇、講演「生きるって幸せ～弓華が残してくれた命の重さ～」道志真弓さん(元フリーアナウンサー) ●**問い合わせ**／たつの市人権教育推進課 TEL0791(64)3182
神河町人権啓発講演会	●**日時**／2月11日(火・祝)9:30～11:40 ※無料、申し込み不要、手話通訳あり ●**場所**／神河町中央公民館グリンデルホール ※JR「寺前」駅から徒歩約5分 ●**演題・講師**／「今を生きる」藤井輝明さん(医学博士) ●**問い合わせ**／神河町教育課 TEL0790(34)0212
加東市 人権を考える市民のつどい	●**日時**／2月15日(土)13:30～ ※無料、申し込み不要、手話通訳あり ●**場所**／滝野文化会館 ※JR「滝野」駅から徒歩約10分 ●**内容**／中学生による人権作文の発表、住民学習実践報告、講演「人として生きる～盲導犬と共に～」浦野龍也さん(NPO法人ゆう工房理事長) ●**問い合わせ**／加東市人権教育課 TEL0795(48)3598

ハーフタイム

昨年 12 月の「人権のつどい」で講演された徳永進さんは 13 年前、思いやりを持った場所を提供したいと鳥取市に野の花診療所を開設。当初はなかなか患者が集まらない中で、病院は患者の主訴を受け止めるところから始まるものだと実感されたそうです。徳永さんは人権も誰かの「叫び」から始まると言います。自分が良ければいいのではなく、誰かの叫びに耳を傾け、敏感に対応できる人権感覚を身に付けたいものです。徳永さんの実体験を通じた思いに触れられたことは、私にとって貴重な「まなび」となりました。(小池)

(公財)兵庫県人権啓発協会　〒650-0003　神戸市中央区山本通4-22-15　県立のじぎく会館内
TEL 078(242)5355　FAX 078(242)5360　info@hyogo-jinken.or.jp
兵庫県人権啓発協会　検索

2014(平成26)年2月発行